

した集団の中に入れることが、子どもの能力をひき出し、伸すことが出来るといえる。そうして、子ども達の持つ能力なりに自信を持たせ、彼らの生活の場を獲得させ、生活経験を豊かにさせることが大切である。

(大会抄録44-46頁)

## 幼児の話しことばの

### 発達について(その二)

#### 五才児の話し方についての追跡調査(1)

国立精神衛生研究所 桜井芳郎  
川口市立舟戸幼稚園 桜井栄子

**目的** 我々は幼児の話しことばの発達について研究を進めてきたが、今回は五才児の男児三名女児三名について一年間話すことを追跡的に調査した結果から五才児の話し方の発達の過程を明らかにし幼稚園における指導について考察する。

**方法** 調査対象児は川口市立舟戸幼稚園一年保育児で知能を中心に言語、生活環境その他により上・中・下の三段階に相對評価を行ない各段階より男女一名ずつを抽出した。調査の方法は、幼児の話すことを随時、登園の時、自由遊び、お弁当の時や作業の時などの自然な場でとらえ hand writing により記録した。

**結果及び考察** 六名の幼児についての一年間の追跡調査の結果を、あいさつ、話しあい、発表について考察した。

**あいさつ** 彼らが担任教師に自分から進んで朝のあいさつをするようになったのは五月に入ってからである。

五月十四日 朝、登園して保育室に入ると教師が黙っていても

K子「先生おはようございます」  
あいさつの相手が担任教師から担任以外の教師に広がるのは九月から十月頃である。

十月六日 朝、隣のS教師にK子「先生おはようございます。あのね、きょうね、よう子ちゃん休むって」教師「どうして」K子「あのね、おなか痛くなっちゃったんだって」  
友達同志でのあいさつがみられるのは十一月から十二月頃である。

十二月十七日 朝、A君「おう、中山君」と言いながら保育室に入ってくる。

なお、朝のあいさつや食事のあいさつ、帰りのあいさつなどは比較的早い時期にできるようになるが感謝やおわびのあいさつができるようになるのは一月すぎである。

**話しあい** 五月、六月頃は担任教師に対する申し出、報告や受け答えなどが、みられるだけで友達同志の間では自問自答的な独語の域を出ないが七月頃になると一往復のごく簡単な対話がみられるようになる。

七月十八日 お弁当の時、K子「うちのチビタンク(太っている弟のこと)パパのことオババってゆうの、ほんたいな」とグループの人に話す。するとM子「うちのおかあちゃん、あしたが、おはあちゃんてゆうと、あいよってゆうの」K子「あいよって、あははは、おもしろいの」と笑う。

これが次第に複雑な内容をもってくるようになり会話へと展開するのは十一月ごろである。

**発表** 特定の親しい友達に報告するようになるのは九月ごろで、グループの中で発表できるようになるのは十一月すぎである。

話しあいについての指導

時期	一 学 期 (4月～7月)		二 学 期 (9月～12月)		三学期(1月～3月)
目 標	担任教師と話す	友達どうして話す	小グループの中で話す	小グループでの話しあい	学級全体の話しあい
内 容	受け答え 申し出 報告	あそびへの参加問 答	小グループの中で の対話あそびの中での対 話	小グループでの対話 が相手の話をかき 展開する、小グル ープ内の話しあい	学級内での話しあい
態 度	担任教師と親しむ 積極的に話す	友達どうして 親しむ積極的に 話しあう	グループの人と親 しむ、誰と話すこ とを話しあう	話の仲間入りができ る、相手自分の意 見を理解しあえる	クラスの友達と意 見の交換ができる
場の構成と 機 会	登園、降園のさいら 自由遊びなどあそ ぶ機会をとる	自由遊び	ごっこ遊び	グループでの製作 あそび、絵本など の経験した話	テレビ、紙芝居、見 本、自然観察、絵 画など経験した話
指 導 上 の 注 意	話しあいの内容を 深まらなから話し あう	友達と話しあうよ うに教師が積極的に 助言する	グループの中へ積 極的に参加するよ うにしむ	積極的に話しあう 子どもの話をきく などのよい極的 にしむ	クラス全員が発言 できるようにする 発言の多い子に は、聞き手になる よう指導し、聞き 手になる子に は、発言の多い よう指導する

(あいさつ 発表は略)

九月二一日 自由あそび T君とふたりで積木であそんでい  
る。舟をつくっているらしい。I君「きのう巨人勝ったよ」T君「う  
ん12タイ……」すぐにI君「12たい0だよ、広岡が打ったんだよ」  
T君「うん」I君「すごかったな」

十一月六日 自由あそび グループの中でK子「悅ちゃんが大き  
なキャベツをもっていったんだって、あたしが小さいミカンもって  
たんだって、それを半分ずつするといくらですか」  
これが一月頃になると簡単ながらも学級全体の中で発表ができる  
ようになってくる。

十一月十一日 保育室 冬休みが終って始めて登園した日、教師  
「お休みの間、何してあそんだの、お話してください」K子「あの  
ね、お正月にみんなに千円もらったためたの、それからおこたに入っ  
てカルタとりしたの、それから御飯たべるのを作ったりお手伝いし  
たの」

入園当初は自分本位の情緒的な話しあいが七月ごろからは  
相手に対する意識が言いかたの中にみられ十一月頃になると話し  
の内容に広がりが増えてくる。更に一月過ぎになると話しの内容に知  
的なふかまりもみえてくるようになる。

かような結果から彼らに対する発達に応じた指導段階として上の  
ような試案が考えられる。

(大会抄録48—49頁)

× × × × × × × ×